

山形市水道通水百周年記念出版

山形市水道百年史

題 字

第二十五代山形市副市長

第十四代山形市上下水道事業管理者

瀧 井

潤

山形市水道百年史編集委員会

山形市上下水道部

編 集
発 行



山形市東部から市街地を眺望する。手前中央から市街地に流れる川が馬見ヶ崎川
(山形市総務部広報課提供)



写真中央が山形城址の霞城公園で公園手前入口が東大手門 (山形市総務部広報課提供)

山形市水道通水100周年を迎えて

山形市長 佐藤 孝弘



水道事業は、人が生きていくために欠かすことができない「命の水」を常時皆様へお届けし、快適な生活基盤を守り続ける重要な使命を担っております。

山形市の水道事業は、馬見ヶ崎川の伏流水を主な水源として給水を開始し、大正12（1923）年5月4日に通水式を行いました。これより以前にも、人々は常に豊富な水を求め、明治期には湧水を水源とした簡易的な水道が市内の一部地域で使用されておりました。

市内全域への水道の敷設を求める声は次第に高まり、山形市は明治23年に調査研究を始め、33年もの年月を費やして近代水道の実現という一大事業を成し遂げました。

大正12年の通水開始以降は、山形市勢の拡大に伴う人口増加と産業発展による水需要の増大に対応するため、新たに不動沢川、蔵王ダム、最上川を水源とした拡張事業に続き、寒河江ダムを水源とした村山広域水道からの受水と、四次にわたる大規模な拡張事業を経て現在に至っております。

山形市水道100年の歴史は、安全安心な水道水を切望した人々の思いに応えるため、揺るがない熱意を持って水道事業の創設と発展に尽力した先人の努力の歴史そのものであるといえます。この場をお借りして、その功績に深く敬意を表するとともに、市民の皆様をはじめ、関係各位の多大なるご理解とご支援に心より御礼申し上げます。

近年の水道を取り巻く事業環境は、人口減

少に伴う水需要の減少や、既存施設の更新需要の増加、頻発する自然災害下での安定供給など、山積する課題への対応が求められており、厳しい状況にあります。

また、新型コロナウイルス感染症の流行は、私たちの生活様式や価値観などに様々な変化をもたらしました。ライフラインである水道を公共の財産として未来へ継承していくためには、時代とともに変容する社会状況にも柔軟に対応し、市民の皆様のニーズを的確に把握するとともに、コストバランスのとれた事業運営に努めることが重要です。

現在、山形市では長期ビジョンとして「健康医療先進都市」を掲げ、誰もが健康でいきいきと暮らせる持続可能なまちづくりを目指し、各般の施策を推進しております。水道行政においては、「山形市上下水道事業基本計画NEXTビジョン2023」を策定し、効率的な事業運営や災害対策など、変化を続ける社会のニーズに応え、将来にわたって安全で快適な生活基盤と健全な水環境を守っていくための取組を進めてまいります。こうした取組を着実に推進するためには、市民の皆様からより一層の信頼を頂くことが重要と考えております。

山形市の水道事業を、次の100年にもつなぐことができるよう、職員一同、新たな決意を持って取り組んでまいります。皆様方には、今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

百年史の発刊にあたって

山形市上下水道事業管理者 庄 司 新 一



山形市の水道は、令和5年5月4日に通水100周年を迎えることができました。このような記念すべき節目に立ち会えましたことは、誠に感慨深いものがあります。

これもひとえに、水道の創設とその後の発展に携わった先人のご努力と、市民の皆様をはじめ水道関係各位のご理解とご協力の賜物であることを改めて実感しております。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

さて、この通水100周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として、通水開始以前から現在までの水道事業の道程を後世に継承することを目的に「山形市水道百年史」を発刊する運びとなりました。

山形市の水道は、大正12年5月の給水開始以降、四次にわたる大規模な拡張事業を行い、その給水能力を向上してまいりました。拡張に伴う新たな水源確保や戦時中の資材不足、戦後復興や高度経済成長の人口急増による急激な水需要への対応など、幾多の困難を乗り越え今日まで築いてきた水道事業のあゆみを本書には記載しております。

また本書は、いつの時代においても、安全で安心な水道水を安定して市民の皆様へお届けするという使命のもとで重ねてきた、日々の努力と取り組みの記録でもあります。

山形市の発展と軌を一にしてきた水道は、今や市内の水道管の総延長は約1,400km、水道普及率は99.95%にまで拡大し、都市基盤を支える重要なインフラとなっております。近年においては、拡張期に整備された水道施

設の老朽化が始まり、水道事業は維持管理と更新の時代を迎えております。

また、地震や相次ぐ豪雨などの自然災害への対策や脱炭素の取組み、業務のDX化など、時代とともに多くの課題への対応が求められるようになりました。

一方で、給水人口と給水量はともに減少傾向にあり、料金収入の減収が見込まれる中、事業環境は厳しい状況にあります。

こうした状況を踏まえ、山形市上下水道部では、次の100年後を見据えた長期的な視点に立ち、これからの10年間で取り組むべき施策と目標を設定した「山形市上下水道基本計画 NEXTビジョン2023」を策定いたしました。この基本計画は、「持続」「安全」「強靱」「循環・環境」の四つを柱とした施策方針を定め、上下水道事業の基本的方向性と具体的な取組内容を示した、今後の道標となるものです。

山形市水道の誇るべき歴史を受け継ぎ、基本理念である「山形の水、安全安心を次の100年へ」を実現するためには、基本計画に基づく事業の着実な推進が不可欠であります。

通水100周年の節目に決意を新たにし、これからも職員一丸となって取り組んでまいりますので、皆様方には変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

I 山形市上下水道施設管理センター(山形市南石関)



II 水道施設

1 浄水場

松原浄水場 (山形市小白川町)



浄水能力 40,820m³/日
敷地面積 27,191.39m²
水源 蔵王ダム 不動沢ダム
馬見ヶ崎川 伏流水

見崎浄水場 (山形市見崎川原)



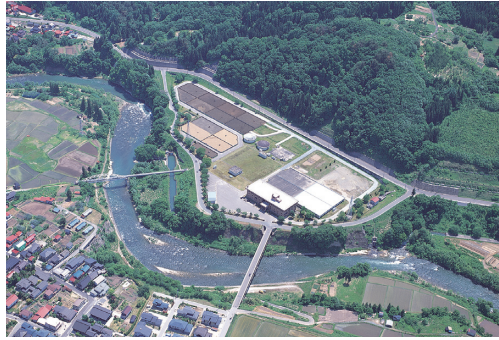
浄水能力 66,500m³/日
敷地面積 36,271.67m²
水源 最上川表流水
取水場 東村山郡中山町長崎字淵ノ上

見崎浄水場高度浄水処理施設



施設能力 60,000m³/日
 処理方法 生物活性炭による処理
 活性炭層厚 2.0m

県営村山広域水道西川浄水場



施設能力 122,500m³/日
 受水の概要 ◦ 昭和59年より暫定給水開始
 ◦ 平成3年より本格受水開始
 山形市受水基本水量 26,661m³/日
 村山地区6市6町に供給
 山形市・天童市・上市市・村山市
 寒河江市・東根市・河北町・大江町
 朝日町・西川町・中山町・山辺町

その他の浄水場

浄水場名	所在地	浄水能力	敷地面積
東沢浄水場	山形市大字上宝沢	1,080m ³ /日	3,013.66m ²
南部浄水場	山形市蔵王上野	1,900m ³ /日	4,069.71m ²
蔵王温泉浄水場	山形市蔵王温泉	3,500m ³ /日	3,602.33m ²
山寺浄水場	山形市大字山寺	635m ³ /日	2,964.90m ²
蔵王堀田浄水場	山形市蔵王温泉	50m ³ /日	424.80m ²



東沢浄水場



南部浄水場

●●● 山形市上下水道部の主な施設と県営の関連施設

2 配水場（配水池容量1,000m³以上）

南山形配水場（山形市大字松原）



配水池容量 10,000m³
敷地面積 15,001.93m²
施設役割

平成3年より村山広域水道から受水し、配水池からは自然流下方式で給水。

上水道配水区域の約20%の区域を受け持つ。

その他の配水場

配水場名	配水池容量	敷地面積
松原配水場	12,200m ³	12,302.80m ²
熊の前配水場	5,100m ³	8,571.58m ²
鈴川配水場	2,718m ³	3,696.00m ²
蔵王みはらしの丘配水場	1,000m ³	7,965.18m ²

その他の水道施設

松原浄水場 小水力発電施設



南石関ポンプ場（見崎区域⇒松原区域）



Ⅲ 下水道施設

山形市浄化センター (山形市嶋南)



認可処理能力	39,000m ³ /日
計画処理人口	61,800人
処理方式	標準活性汚泥法
敷地面積	77,400m ²
処理区域面積	1,147ha

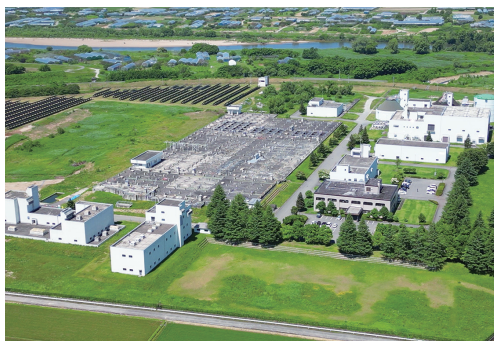
七浦中継ポンプ場 (山形市大字七浦)



計画流入量	12.40m ³ /分
処理区域面積	897ha
敷地面積	1,180m ²

最上川流域下水道山形浄化センター (天童市大字大町字西原)

(公財) 山形県建設技術センター下水道事業所



認可処理能力	122,300m ³ /日
処理方式	標準活性汚泥法
敷地面積	257,000m ²

処理区

《山形処理区》

山形市・天童市・上市市・山辺町・中山町
 ※山形市は平成4年2月より供用開始

<山形市処理区>

処理区域面積	4,767ha
市計画処理人口	175,000人

その他の施設 前明石ケーキ処理場 (山形市大字前明石)



認可処理能力	15.0 t / 日
敷地面積	14,300m ²
昭和55年よりコンポストの製造開始	

山形市水道通水100周年記念式典

開催期日：令和5年6月2日（金）

会 場：ホテルメトロポリタン山形

令和5年度は、山形市水道通水から100周年の節目にあたります。これまでの歩みを振り返るとともに、「山形の水、安全安心を次の100年へ」のスローガンの下で、これからも市民の皆様から信頼される上下水道事業を目指す契機とするため、記念式典を開催することとなりました。

式典の開催に際し、山形市水道の創設と発展にご尽力いただきました皆様方をはじめ、市民の皆様と、関係各位のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

式典開催



市長式辞



山形市長 佐藤 孝弘

来賓祝辞



厚生労働省
医薬・生活衛生局水道課長
名倉 良雄 様



総務省
自治財政局公営企業経営室長
橋本 勝二 様



公益社団法人
日本水道協会理事長
青木 秀幸 様



山形県知事代理
防災くらし安心部長
中川 崇 様



山形市議会議長
長谷川 幸司 様



歴史的資料の展示

水野廣治氏が自費出版した
「山形市地下水道編」の原本

感謝状贈呈



《受賞者》

- 山形市管工事協同組合 様
- 一財) 山形市上下水道技術センター 様
- ヴェオリア・ジェネッツ株式会社 様

災害時における応急活動の応援団体として、応援体制の確立に尽力された3団体の皆様に感謝状を贈呈いたしました。

受賞者代表挨拶



山形市管工事協同組合理事長

鹿野 淳一 様

記念DVD上映



水道100年の歴史パネル



●●● 山形市水道通水100周年記念式典

記念式典閉式の挨拶



上下水道事業管理者 庄 司 新 一

山形の水、安全安心を次の100年につなぐために、これからも努力していくことを誓い、記念式典を閉じました。

記念講演



講演者：厚生労働省
医薬・生活衛生局水道課長
名倉良雄様

演題：「水道の過去・現在・未来」

記念式典スナップ写真

